

## 在シドニー総領事通信

### 第 63 回 北部準州新内閣、そして藤田ファミリー

令和 4 年（2022 年）6 月 21 日



ダーウィン記念連合教会での藤田ファミリーとの懇談（2022 年 6 月 6 日）

5 月 21 日の豪州連邦選挙で労働党新政権が成立しましたが、北部準州（NT）では、それに先立つ 5 月 10 日にガナー首席大臣が第二子出産を機に辞任を表明し、5 月 13 日にファイルズ新首席大臣が就任しました。6 月には、ダーウィン記念連合教会の交流を通じて戦後和解に貢献した藤田ファミリーがコロナ後に初めてダーウィンを訪問予定だったので、その時期に合わせて 6 月 6 日から 8 日までダーウィンに出張し、ファイルズ新首席大臣と藤田ファミリーにお会いしました。今回の総領事通信では、今回 8 回目となるダーウィン出張の成果を皆さんに報告させていただきます。



ファイルズ NT 首席大臣との会談（2022 年 6 月 7 日）

## ● ファイルズ NT 首席大臣との会談

6 月 7 日、ファイルズ NT 首席大臣と会談しました。これまで NT の保健大臣としての記者会見を頻繁に聞いており、また観光大臣としてオンラインでお話したことはありましたが、対面では初めてお会いしました。

ダーウィン出身で、小学校教員を務めた後、2012 年に NT 議員に初当選し、2016 年からはガナー NT 首席大臣のもとで司法長官・法務大臣・保健大臣など主要閣僚を務めてきました。

会談では、私から日本と NT が歴史と交流、ビジネス、安全保障など幅広い結びつきがあることを説明しました。そして、各分野での戦略的なパートナーシップの継続・強化と新たな協力機会の開拓に向けて、有意義な意見交換を行うことができました。

同日夕刻には、[ファイルズ首席大臣の Facebook](#) に早速会談の写真がメッセージとともに掲載され、エネルギッシュな仕事振りを感しました。私も [Twitter](#) と [Facebook](#) でメッセージを添えてシェアさせていただきました。



アーキット NT 多文化大臣との会談（2022 年 6 月 7 日）

### ●アーキット NT 多文化大臣との会談

同 7 日夕刻に、アーキット NT 多文化大臣と会談しました。アーキット大臣は先住民の自殺予防に長年取り組んできた後、2016 年に NT 議員に初当選しました。本年 2 月にダーウィン空爆 80 年関連行事出席のため来訪した際には、NT 議会議長として山上駐豪大使の NT 議会演説の司会を行っていました。

今般のファイルズ NT 首席大臣就任に際して初入閣し、日本人コミュニティを所掌する多文化大臣の担当となったので、今回お会いしたものです。その他、国際教育やデジタル開発も担当しており、これらの分野での日本との協力関係について有意義な意見交換を行うことができました。

この機会に、アーキット大臣が取り組んでいる先住民問題についてもお話を伺いました。北部準州は豪州内でも先住民の人口比率が特に高く、治安や家庭、雇用など様々な課題に直面し、取組も進んでいます。解決策を押し付けるのではなく、まず耳を傾けて寄り添っていくことが大事との姿勢を伺い、多くを学ぶとともに強い熱意を感じました。





藤田ファミリーとダーウィン記念連合教会関係者（2022 年 6 月 6 日）

## ●藤田ファミリーとの懇談

前日の 6 月 6 日夕刻、ダーウィン記念連合教会で、藤田ファミリーと初めて対面でお会いしました。

戦後、ダーウィンの湾内での航行を妨げていた沈没船の引き上げ・撤去事業を、藤田サルベージ社が受注し、1959 年から 61 年まで事業を実施しました。同社の藤田柳吾社長は日豪の和解に尽力し、1960 年のダーウィン記念連合教会開設時に、沈没船の金属から作られた 77 本の十字架を同教会に寄贈しました。その後も、同教会と藤田ファミリーの交流は長く続き、日豪和解を後押ししてきました。

今回来訪したのは、藤田柳吾社長のご子息の藤田銃一郎さんと、そのご令嬢の藤田欣子さんの 2 人です。銃一郎さんは引き上げ作業当時 26 歳で、沈没船を焼き切るのに必要な酸素製造を担当し、帰国後は故郷の松山市で酸素事業を立ち上げました。欣子さんは 1980 年代に 16 歳の時にシドニーに留学し、祖父の足跡を辿ってダーウィンを訪問しました。



ダーウィン記念連合教会前の藤田家墓標のスクリュー（2022年6月6日）

その後、2009年に藤田サルベージ社の保有する資料をNT図書公文書館に寄贈して式典も行った時から、交流が特に活発になった由です。2010年の連合教会設立50周年行事にも出席し、その後も2013年、2017年、2019年にも来訪しています。2017年のダーウィン空爆75周年に際し、藤田ファミリーは沈没船のスクリューで作られた墓標を連合教会に寄贈し、連合教会の正面に設置されています。傷んで読みにくくなっていた墓標の説明板も、今般新しいものに更新されたということです。

今回、77本の十字架から墓標のスクリューに至る歴史について、藤田ファミリーとダーウィン記念連合教会双方の関係者から直接お話を伺い、60年以上にわたる和解と交流の歴史を感じました。今後の交流の更なる発展を願っています。





北部準州豪日協会（AJANT）役員と（2022年6月6日）

### ●北部準州豪日協会（AJANT）との意見交換

今回の出張を機に、[北部準州豪日協会（AJANT）](#)の皆さんとも意見交換を行いました。本年2月のダーウィン空爆80年関連行事に際して、伊号第124潜水艦新慰霊碑の建立に尽力いただいたことに感謝の気持ちを伝えました。

AJANTは、長年にわたりダーウィンで日本文化行事を開催しています。本年のダーウィン日本祭は、11月上旬に開催する方向で準備を進めていると伺いました。私も可能な限りその時期にダーウィンに出張し、後押しする考えです。

今回ファイルズ新NT首席大臣にご説明したとおり、日本とNTは、歴史と交流、ビジネス、安全保障など幅広い結びつきがあります。そして、将来に向けてそれぞれを発展させていくことが重要と感じています。今回、新首席大臣及び新大臣と会談するとともに、藤田ファミリーと初めて対面でお会いして、一歩前進することができました。これからも、日本とNTの関係を着実に発展させるために努力する所存です。皆さんからも温かいご支援をいただければ幸いです。

在シドニー日本国総領事 紀谷昌彦